

令和5年度第1回美術館協議会でいただいたご意見に対する対応状況

	ご意見	対応状況
1 広報のあり方	<p>○ モニター会議での意見や、アンケート結果をどの様に活用していくか。</p> <p>○ 松澤宥展や、池田満寿夫展の企画展は、フラットに受け入れない人が大勢いて、意外と観覧者が少ない、広報活動を工夫してもらいたい。</p> <p>○ 企画展、常設展、アートラボ、オープンギャラリーなどの企画が多く、常設展の展示回数を減らすなどして、その分広報に力を入れて県内へ企画内容の周知を図ることが大事かと思う。</p>	<p>来館者目線で指摘された貴重な意見は、できる限り反映し、より快適な鑑賞ができるよう心がけている。展覧会内容の良さと入場者が比例しないことは課題であり、従来の広報活動メディア、ポスター・チラシなどに加えて、松澤宥展、池田満寿展夫など作家の生前を知らない層には、SNSで興味を持ってもらう画像の配信を行ったことで若い年代層の来館が増えた。今後も展覧会内容に応じて様々な広報活動を行っていく。</p>
2 展覧会について	<p>(1) 仏像や工芸品など目玉となる重要文化財や国宝を持ってこられる博物館的な展示があっても良いのではないか。</p> <p>(2) 企画展は大勢の人が来なくても本当に興味のある人が来てくれる量より質の時代、質の高いアートを求める人たち、多様なアートを求める人たちに観賞いただけるよう勧めていただきたい。</p> <p>(3) テーマ性がはっきりした常設展を切り出していく。そろそろそういった時期に来ていると感じる。</p> <p>(4) コンテンポラリーの海外作家をどうこの県内で紹介するかというのは大きな課題。単館では大変なので、巡回というような共同開催で海外のアーティストの実践をみていただく機会があってもいいのではないか。実現すればこの館の大きな魅力となると感じている。</p> <p>(5) 南信に住んでいても観に行きたくなるような、長野でしか観られない企画展を開催してほしい。</p> <p>(6) 県内各地域に寄り添う企画展、各地域の文化芸術を紹介する展示をしてはどうか。</p>	<p>(1) 今年度企画展「京都 細見美術館の名品展」では、重要文化財8件を含む優品を展示予定。折々の企画展で、普段目にするのでできない重要美術品の展示ができるように心がけている。</p> <p>(2) 美術館運営のため、質の高い自主企画展と、ある程度人を呼べる企画展（巡回展）を組み合わせ実施しているが、質の高いアートを紹介することが美術館の本質であると、改めて心に留めて運営していく。</p> <p>(3) 本館常設展では、同時期開催の企画展と連動した展示を実施、また近年は、毎回、一応テーマを設定して展示を行っているが、より明確に伝わるように打ち出していきたい。</p> <p>(4) 海外作家展の実績がないことが、当館の弱いところ。ご指摘のとおり、まずは巡回展から海外アーティストの展示を考えていきたい。並行して、手始めに物故の海外作家の展覧会を実施する予定。</p> <p>(5) (6) 「池上秀畝展」開催した際、南信発のバスツアーが大変好評であった。このように、各地域ゆかりの郷土作家を取り上げる展示は有効であると考えている。</p>

	ご意見	対応状況
3 インクルーシブ	○障がいのある方が1人でみえても、皆さんと同じように鑑賞出来る合理的配慮を実践いただきたい。モデルケースとなるようなことを何かもう一歩取り組んでいただきたい。	当館では、休館日に障がいをお持ちの方を招待する特別鑑賞日を年2回設けているが、これでは、障がいをお持ちの方と健常者を分け隔ててしまうというご意見。今後、このような指摘を心に留めながら、どなたでも楽しめる美術館を目指して取り組んでまいります。
4 施設関連	(1) 駐車場の使い方について改善点があるのではないかと。 (2) 貸館施設関連の展覧会名やポスターを掲示する場所や掲示板が少なく案内が不足している。 (3) 全館で今やっていることとか、今日行われる講演会など一目で分かる表示が必要。	(1) 城山公園駐車場の有料化に伴い、東山魁夷館北側駐車場の利用については、歩行に配慮を要する方等は障がい者手帳をお持ちでなくとも口頭申し出により障がい者区画への駐車を認めている。貸館利用者のうち会場設営や撤収に関わる方はバス駐車区画の空き区画への駐車を認めるなど弾力的な運用を行うこととした。 (2) (3) 館内の案内表示や掲示については、デジタルサイネージの活用方法見直しを含め、意匠面とのバランス、経費等を勘案しながら、逐次改善を図っており、貸館で開催する展覧会等について、B版ポスターを本館1階西側と3階の出入口に掲示できるようにした他、地階貸館への案内の追加、メインエントランス掲示スペースの利用方法見直しを実施した。
5 職場環境	○学芸員やスタッフが疲弊しないで、よりクリエイティブな状態で仕事ができるような環境づくりが大事必要なのではないかと。	働き方改革のもと、職員が疲弊しないような、適切な業務量・業務分担を心掛けている。また、本年度は学芸員及び広報マーケティング室に正規職員を増員している。
6 霧の彫刻	○「霧の彫刻」のパフォーマンスは素晴らしいので、もっと多くの回数を実施出来ないかと。年に1回くらいアーティストとのコラボパフォーマンスも検討いただきたい。	「霧の彫刻」作者・中谷英二子氏と協議の結果、1日6回5分ずつの噴出となった。加えて、毎月第一土曜日の13:30の回には、15分バージョンを実施することとしている。 新築オープン記念の田中泯氏とのパフォーマンスは、多くの方々の記憶に刻まれ、当館の財産になっている。是非とも同様なことを検討していきたい。
7 近隣施設との連携	○近隣の善光寺や水野美術館など周遊できる仕組みづくりをしてはどうか。	年間600万人もの観光客が訪れる善光寺との連携は重要と考えており、美術館への誘導を図る境内への看板の設置や、善光寺参拝券での美術館観覧割引などを行っている。 また、善光寺平の長野市、須坂市、小布施町、高山村の美術館・芸術文化施設と善光寺平アートライン協議会を設置し、相互交流や、情報交換、研究などを通じてそれぞれの施設への誘客を図っている。